

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校

- 1 わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」（「知」）を定着させ、進路実現を図る。
- 2 やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性（「徳」）を醸成する。
- 3 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身（「体」）をはぐくむ。
- 4 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化（「絆」）する。

2 中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり

1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。
 - ア 教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。
 - イ 授業公開・研究授業・授業研究・授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。
 - ウ 外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開するとともに、授業研究を行う。
 - エ 学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。

*36期生における生徒向け学校教育自己診断(授業について) 満足度(平成25年度1年次67%)を卒業時の平成27年度には82%にする。また、図書館活用月間や読書週間を設定し、図書貸し出し冊数を平成27年度には2倍(平成24年度比)にする。

2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成

- (1) 社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。
 - ア あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、中学校との連携を強め、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。
 - イ 基本的な生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。
 - ウ 社会の一員として生きていけるよう長期休暇や「総合的な学習の時間」・LHR等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。

*延べ遅刻数を平成27年度には30%減(平成24年度比)にする。また、3年生の希望進路実現率(平成25年度76%)を平成27年度には92%にする。

3 健全な心身・人間関係力の育成

- (1) 美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。
 - ア 「ようこそ花と緑の西淀川高校へ」のイメージに合わせ校舎内外の環境美化をすすめ、健康教育に取り組む。
 - イ 部活動への参加を促し部活動の活性化を図るとともに、生徒会を中心とした学校行事の充実により学校教育全体の活性化を図る。

*36期生における生徒向け学校教育自己診断(学習環境について) 肯定率(平成25年度1年次41%)を卒業時の平成27年度には72%にする。また、部活動参加率を(平成25年度20%)を平成27年度には30%にする。
- (2) 人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。
 - ア 自らの気持ちをコントロールでき、自ら考え、判断し、行動する姿勢をはぐくみ、自尊感情を高め他者を理解しようとする心情を育てる。

*36期生における生活実態調査において「何でも話せる人がいる」(平成25年度1年次87%)を卒業時の平成27年度には92%にする。

4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化

- (1) 生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、連携を深めるとともに広報活動の充実を図る。
 - ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取り組む。
 - イ 部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携を深める。
 - ウ 地域や中学生が参加できる行事を展開するとともに、地域での行事に積極的に参加し、地域との連携を強化する。
 - エ ホームページ等を活用してPR活動を積極的に行う。

*保護者向け学校教育自己診断(学校について) 満足度(平成25年度76%)を平成27年度には85%にする。

5 学校経営の効率化

- (1) 教育活動や業務の効率化・ICT化を促進する。教職員の事務業務時間を減らし生徒と関わる時間を確保する。
- (2) 複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化を図り、教職員全員が情報を共有できる環境をつくる。
- (3) 有機的に連携して業務の圧縮を図れるよう、教科、分掌、委員会の再構築をおこなう。

*教員アンケートにより「ICT化の推進により、業務の効率化が図られた」が、平成27年度は26年度の15%増にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*実施方法</p> <p>生徒への実施時期は12月である。ほぼ全員から回収した。保護者にも、12月中旬に回答用紙を封筒に入れ、生徒を介して配付・回収した。担任から強く要望してもらうことで、昨年に比べて回収数も回収率も増加した(20%→35.8%)。</p> <p>1. 「学校へ行くのが楽しい」については</p> <p>3/4の生徒が楽しいと感じている。つまり満足度は75%ということになる。これは昨年の60%に比べても大きく上昇した。</p> <p>3. 「授業は、わかりやすい」(教員：わかりやすい授業をしている)については</p> <p>81%の生徒がわかりやすい授業だと思っている。なお、この数字は昨年よりも9%上昇している。教員の95%はわかりやすい授業を自負している。本校の「わかる」授業実践の具体を示す数字である。</p> <p>12. 「基礎学力を身につけるプリント学習(HR等で実施)は自分の学力向上に役に立つ」については</p> <p>生徒と教員の意見の乖離がみられる。生徒の8割近くは学力向上に役立つと思っている。しかし教員の肯定意見は6割にとどまっている。これは教員は教材などの工夫を継続しているが、十分な成果を感じていないことによるものと思われる。</p> <p>19. 「生徒指導について、厳しいと思う」については</p> <p>生徒は頭髪やケータイ指導から76%が厳しいと感じている。ただし、教員はそれ程厳しい生徒指導をしているとは思っていない。この差は当然かもしれないが、埋める努力は必要である。</p>	<p>第1回(6月11日(水))</p> <p>*授業見学の感想:「比較的ま真面目に取り組む生徒が多く、授業が落ち着いている」</p> <p>*広報活動について</p> <p>マスコミ影響と多くの中学校を訪問し、広報している成果が出ている。</p> <p>*学区撤廃について</p> <p>学区撤廃により通学範囲が大きく広がった。遠方から通学する生徒も増えたことで通学距離と遅刻欠席数の相関関係は認められない。</p> <p>*まとめ</p> <p>生徒数が増加したことが喜ばしい。生徒も真剣に授業に臨んでいるところを見学できた。先生方も張り切っているようだ。新しく生徒を送ってくれた中学校とより緊密になるよう広報活動を行ってほしい。</p> <p>第2回(10月29日(水))</p> <p>*授業見学の感想:「元気そうな生徒を先生方が上手に授業の活性化につなげている」</p> <p>*人権教育について</p> <p>差別発言があったときは、すぐに適切に指導していることはわかるが、性同一性障がいなどの教職員研修も必要ではないか。(1/29 LGBTに係る職員研修実施)</p> <p>*インターンシップについて</p> <p>2年生で実施しているインターンシップの効果について質問があり、受入先を確保するのが難しいが、ミスマッチを防ぐ意味からも意義があると説明。</p> <p>*まとめ</p> <p>1人でも多く進級・卒業できるように先生方には引き続き粘り強く取り組んでほしい。</p> <p>第3回(2月2日(月))</p> <p>*食堂視察(冬休みに改修工事をした食堂)</p> <p>*学校教育自己診断と授業アンケートの結果について</p> <p>アンケート回収率が増加した。学び直しは学力面だけでなく、意欲が上がったか等についても大切な評価材料になる。全体的に評価が上がっているのは、先生方が努力している結果である。</p> <p>*まとめ</p> <p>学び直しについては、多くのアイデアが紹介された。利用できるものは取り入れてこれからも工夫を続けてほしい。</p>

府立西淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 1/30 現在
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1) わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア 教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 イ 授業公開・研究授業・授業アンケート等を活用した授業改善 ウ 外部専門家等による講義・講演や体験的授業及び授業研究 エ 生徒の読書習慣を確立	ア・T-Week 期間やLHRにおいて本校独自教材「N-TAG」等の活用により基礎学力の充実を図る。 ・現行の「TAG」「N-TAG」等の教材の内容を再点検し、生徒の実態に合わせた教材改編および新たな開発に取り組む。 ・ICT等の情報機器や視聴覚機器を活用した授業づくりを深化させる。 イ・6月・11月の授業公開、7月・12月の授業アンケート及び学校教育自己診断を活用し、授業改善を推進する。 ウ・TTによる授業や体験型の授業の拡充を図る。 ・学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取り組む。 エ・読書推進習慣を設定し読書活動を推進する。	ア・実施後の生徒アンケート「力がついた」70%(前年65%) ・教材の内容データの整理・改編 イ・学校教育自己診断で教員の授業改善に取り組んでいるを85%(前年82%)2回目の授業アンケートで生徒の授業満足度87%(前年82%) ウ・生徒向け学校教育自己診断(体験型学習について)肯定57%(前年52%) ・事後教職員アンケート「授業改善のために大いに参考になった」80%(前年74%) エ・調べ学習等図書室の活用した授業を展開する(延べ10教科・科目以上)。	ア・生徒アンケート「力がついた」76%。 ・習熟度別、クラス別にプリント教材を作成、「N-TAG」と並行活用。総合学習の時間や「T-week」での学び直しに活用。 ・ICT先進校視察に20名。タブレット端末やプレゼンテーションソフトを活用した授業等改善進む。(◎) イ・教員の授業改善に取り組んでいるを93%、生徒の授業満足度82%。(◎) ウ・学校教育自己診断(体験型学習について)肯定64%。 ・和歌山大谷口准教授授業研修「授業改善のために大いに参考になった」80% (◎) エ・調べ学習等図書室の活用した授業は延べ11教科・科目。(◎)
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の定着 ア 規範意識の醸成、中学校との連携強化し、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ キャリア教育や志学の展開	ア・教育相談や生徒の発達といった広範な内容を含む生徒指導に係る職員研修を実施し、生徒とのかかわりを深める糧とする。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。また、定期的に『遅刻0週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多い生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の指導を要請する。 ・学期当初の4・9・1月を「あいさつ月間」とする。 ウ・3年間を俯瞰したキャリア教育の取組を推進し、仕事についての意識を高め就労意欲をもたせるための「先輩に聞く」やインターンシップ等の取組を積極的に取り入れ、生徒の進路希望実現をめざす。	ア・研修後のアンケート肯定率90%(前年88%)。 イ・3年生の欠席日数1年次比較5%減。 ・3年生の遅刻回数1年次比較5%減。 ウ・3年生の希望進路実現率85%(前年76%) ・3年生の「卒業講座」を10回以上開催	ア・教職員向けに実施し人権研修の事後アンケート、「衝動コントロールについて」肯定率92%、「LGBTについて」肯定率96%。(◎) イ・3年生の欠席日数1年次比較16%減。 ・3年生の遅刻回数1年次比較7%減。(◎) ウ・3年生の希望進路実現率85%。 進路希望者内定は100%、就職希望者内定は95% ・3年生の「卒業講座」の名称を変更し「特別講座」として年10回開催。生徒への事後の感想文やアンケート「役立った」との回答等で肯定率80%。(◎)
3 健全な心身・人間関係力の育成	(1) 美しい学校環境、安全安心な学校づくり ア 校舎内外の環境美化 イ 部活動活性化、学校行事の充実 (2) 人間関係力、コミュニケーション力育成 ア 自己コントロール、主体性の育成	(1) ア・校舎内外の清掃美化を徹底するとともに、「花と緑」がいっぱいという環境の中で優しい心をはぐくむ。 ・生徒の清掃ボランティアを支援する。 イ・リーダーを養成し生徒にとって楽しい学校生活とするため学年を横断した取組(部活動や生徒会を中心としたフェスタ等)の学校行事を充実させる。 (2) ア・授業を中心としてあらゆる場面において自己を表現できるコミュニケーション力をつける取組(グループワークやプレゼンテーション)を行う。 ・いじめの未然防止のため、生徒の状況の細かい把握に努め、信頼関係を構築して生徒が教職員に相談しやすい環境を整える。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断(学習環境について)肯定率65%(前年61%) ・年間延べ参加者10%増(前年1167名) イ・アンケートによる部活動加入生徒の「充実している、満足している」75%。生徒会主催行事への参加生徒数前年比10%増(前年40人)。 (2) ・教職員向けアンケート「いじめは見逃さない」100%。生徒向けアンケート「校内でいじめなし」100%	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断(学習環境について)肯定率71%。 ・全日早朝清掃活動、週1~2回地域清掃を実施。年間延べ参加者1335名、14%増(◎) イ・部活動参加生徒は88名(入部率26%)。アンケートによる部活動加入生徒の「充実している、満足している」77%。生徒会主催行事への参加生徒数前年比は、主催行事回数減少のため15%減。(34人)(◎) (2) ・差別発言あり即座に対応し学年全体で継続的指導実施。教職員向けアンケート「いじめは見逃さない」100% 生徒向けアンケート「校内でいじめなし」100%。(◎)
4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化	(1) 生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 ア 家庭連絡、保護者との連携 イ 中学校との相互連携 ウ 地域・中学生が参加できる行事展開、地域行事に参加 エ ホームページ、PR活動	ア・日常の面談・相談・電話等の連絡・家庭訪問・中学との連携等により生徒・保護者と緊密な関係を築く。 イ・周辺の小・中学校を中心に部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、校種をこえた相互連携をさらに深める。 ウ・さまざまな本校主催行事をさらに推進し、地域、中学生と連携を推進する。また、本校生徒がいろいろな地域行事に積極的に参加できるよう連携を強化する。 エ・積極的に広報活動に取り組み、地域・中学校から本校の教育活動についての理解をえる。	ア・中学校訪問校を前年度の83校から増加させる。 イ・延べ交流・連携回数前年比20%増(前年度4校5日) ウ・行事への地域・中学生の来校者総数15%増(前年189名)。地域等行事への生徒参加総数10%増(前年64名)。 エ・ホームページの更新回数前年比5%増(前年126回)。「学年通信」「保健室だより」等の発行回数前年比10%増(前年101回)。新たな学校紹介パンフレット等の配布。	ア・全教員による春休み中の新入生出身地中学訪問66校、夏休み中学訪問184校等。189中学へ延べ354回実施。出身中学への生徒「里帰り(訪問)計画」35校も新たに実施。中学校からは取組みがわかると好評。(◎) イ・学校との延べ交流・連携回数前年並み維持(3校5日)。(△) ウ・環境フェスタや部活動交流等の行事への地域・中学生の来校者総数300名58%増。地域等行事への生徒参加総数6%増(68名)。(◎) エ・ホームページの更新回数前年比18%増。(149回)「学年通信」「保健室だより」等の発行回数前年比11%増(112回)。新ポスター・校名入りシャープペンシル作成、学校案内リーフレットとともに配付。(◎)
5 学校経営の効率化	(2) 複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化、教職員全員が情報を共有できる環境づくり。	(2) 前年度より構築を進めているICTシステムを完成させ、情報の一元化を図るとともに、円滑に運用できる環境をつくる。	(2) 教員アンケートで「ICT化の推進により、業務の効率化が図られた」55%。	(2) 教員アンケートで「ICT化の推進により、業務の効率化が図られた」60%。(◎)